

# 歴史公園における運営サービスと利用者数に関する現状と課題

堀江 典子 森本 千尋

## 【要旨】

歴史公園においては、史跡、文化財等を活用したイベントやプログラム、解説案内、情報発信などの運営サービスがなされている。歴史公園の持続可能性を確保するためには保全と利用のバランスが不可欠であり、利用実態とともに運営サービスによる効果と課題の定量的・定性的把握を踏まえ公園利用を最適化していく必要がある。本稿では、「歴史公園における管理運営実態調査」（平成 23 年度）をもとに、歴史公園における運営サービスの現状と課題を報告し、諸活動と公園利用者数の傾向、及び利用集中問題との関係を探った。活動数が多く多様であることが利用者数増を促す反面、利用集中問題も引き起こしていることが確認されたが、問題発生を回避した利用促進の可能性が示された。

## 【キーワード】

歴史公園，資源，運営サービス，実態調査，持続可能性，相関分析

# 公園管理運営士認定試験制度における成果と課題

平松 玲治

## 【要旨】

平成 18 年度から創設された「公園管理運営士認定試験制度」における実施状況を総括し、公園管理運営士認定試験制度が果たした役割と、今後の課題について考察した。6 年間の実施実績を概観すると、本認定試験制度の果たした役割は、自治体から指定管理者を公募する際の評価項目として、指定管理者から資格取得による技術力のアピールや受験を通じた人材育成に活用されていたことであり、今後の課題は、認知度の向上及び資格登録者数の確保が必要であることが確認された。

## 【キーワード】

公園管理運営士，公園管理，資格制度，人材育成

# 歴史公園における花の活用事例

青木 明代 堀江 典子 平松 玲治

## 【要旨】

歴史公園に植栽されている花（花木を含む）は、景観形成だけでなく多様な機能や役割を有していると考えられる。本稿では、歴史公園に植栽されている花の持つ役割の重要性について着目し、イベントとしての活用事例、歴史的景観演出の活用事例、花そのものが歴史的資源となっている事例の 3 つに整理した。3 つの分類においては重複しているものも多く確認された。利用促進の面においても有効な資源であるほか、保全・保護活動、市民活動にも活用されており、「花」を有効な資源として再確認する必要がある。

【キーワード】

歴史公園, 花, 公園管理, 地域活性化, 歴史的資源, 景観演出

## 国営みちのく杜の湖畔公園ふるさと村における市民参加活動

平松 玲治 土方 敏彦 堀江 典子 青木 明代

【要旨】

国営みちのく杜の湖畔公園のふるさと村における整備内容、古民家の概要、他の施設や機関等との連携・交流を整理した後、ふるさと村で平成 13 年度から平成 23 年度までに実施された市民参加活動における発足経緯、活動内容、管理センターからの活動支援内容についてとりまとめた。その結果をもとにして、ふるさと村の市民参加活動の特徴、公園管理に果たした役割、今後の課題について考察した。ふるさと村の市民参加活動は公園側が主体的に関与できている反面、ボランティアの活動が受動的であることや活動継続が課題であり、今後に解決すべき課題は、食体験の新たな提供体制の検討、全ボランティアが横断的にコミュニケーションできる機会や方法の創出が必要であることが確認された。

【キーワード】

国営みちのく杜の湖畔公園, ふるさと村, 市民参加活動, ボランティア

## 都市緑化植物園における運営現況調査

青木 明代 森本 千尋

【要旨】

都市緑化植物園は、昭和 50 年の「緑の相談所—都市緑化植物園—の設置及び運営について」（建設省通達）により、全国に設置されているが、40 年近く経った現在、都市の「みどり」に関するニーズの変化により、都市緑化植物園が扱う「みどり」の分野は広がっている。このような状況の変化に対応した今後の都市緑化植物園の方向性を検討するため、全国の都市緑化植物園に対し、運営現況についての調査を行った。多くの施設で、緑のまちづくり、環境教育、子どもの園芸活動等に力を入れているほか、市民活動や関係団体との多様な連携を行っていることが確認された。課題としては、施設面での老朽化、相談員等の体制確保、ソフトの充実、ネットワークの構築があげられた。今後、利用ニーズを適切に把握し、市民団体とのネットワークを構築する等、施設の機能を効果的に高めていくことが求められている。

【キーワード】

都市緑化植物園, 緑の相談所, 管理運営, アンケート調査

# 米国における幼児向け環境教育プログラム “Growing UP WILD”

川原 洋

## 【要旨】

米国において幼児向け環境教育が注目を浴びている。野生生物をテーマとした環境教育プログラム「プロジェクト・ワイルド (Project WILD)」の事務局である米国環境教育協議会 (CEE/Council for Environmental Education) が、幼児を対象とした環境教育プログラム「Growing UP WILD」を、プロジェクト・ワイルドの指導者ネットワークを活用し、幼児教育に携わる有識者の知識を集大成して開発した。2009年、テキサス州より普及がスタートし、2011年には42州まで拡大している。そのプログラムの開発経緯、プログラム内容構成、優れている点、米国における普及状況など、Growing UP WILDを中心に紹介する。

## 【キーワード】

Project WILD, CEE, 幼児向け環境教育, Growing UP WILD, アクティビティ, コーディネーター

# 国営公園の特徴を生かした「緑のカーテン」普及事業

奥村 典康

## 【要旨】

2011年夏、震災の影響による電力不足が心配され節電対策の1つとして、「緑のカーテン」が注目されるなか、節電への効果的な取り組み方法や夏を快適に過ごすための緑の楽しみ方を提案・普及、ならびにこれを題材としてのコミュニティ醸成を目的とした市民向け講座とパネル展示を国営昭和記念公園で実施した。

## 【キーワード】

緑のカーテン, エコモニター, パネル展, 節電効果

# 大規模公園における生物多様性の解説展示手法に関する研究

大澤 啓志 小島 仁志

## 【要旨】

緑を求めて多くの人々が来訪する大規模公園は、生物多様性の教化あるいは保全意識を持つ契機の間として、高い潜在力を有している。そこで、展示素材—解説媒体—利用者の空間配置も含めた「効果的な解説展示のための空間デザイン」について、首都圏周辺の4国営公園他を事例に実態調査を行った。展示素材に対する操作性は、自然再生等の生態系基盤そのものの造成や植生管理法による違いを見せる事例等が認められた。空間関係に対する操作性として、媒体越し観察型、内部引込み型、視線誘導型、集中展示型の4区分が確認されたが、ほとんどが媒体越し観察型であった。また、上下方向に視点レベルをずらすこ

とで、新鮮な風景や展示素材への接近を可能とする好事例も認められた。ただし、展示素材－解説媒体－利用者の空間配置の操作性について、明らかな造形意匠を感じるものはほとんど認められず、今後、この生物多様性の展示解説手法の開拓の余地が大きいことが示された。

**【キーワード】**

生物多様性，解説展示，空間デザイン，利用者－解説媒体－展示素材の空間関係

## **国営公園等における園芸福祉活動、園芸療法の利用サービスの開発 に関する調査研究**

四方康行

**【要旨】**

国営公園等での園芸福祉活動や園芸療法を実施するためには、専任の園芸療法士やスタッフが必要であり、そしてその活動を支えるためのサポーターであるボランティアの確保をどのようにするかが重要なポイントになる。次に、集まったボランティアを維持していくためには、ボランティアが楽しんで出来ることが重要である。そして、利用者である障害者施設の協力体制が問題となる。まず、送迎および付添いに作業所の職員が対応できるかどうか、作業所のプログラムの中に組み込めるかどうか、人員と送迎の時間等が問題となる。さらに、ボランティアのフォローアップや受け入れ側のスタッフや施設等の条件整備も重要な要因である。今後は園芸福祉活動あるいは園芸療法の活用範囲がますます広まることを期待する。

**【キーワード】**

園芸福祉活動，園芸療法，園芸療法士，ボランティア，サポーター